

聖書:使徒の働き19章11～20節

説教:主イエスの名をあがめる

はじめに

いま読んでいただいた所には驚くようなことが書かれています。パウロが身につけていた手ぬぐいや前掛けを病人に当てたら病気が去り、悪霊も出て行ったというのです。そればかりではありません。悪霊が大暴れして、巡回祈祷師と呼ばれる人たちに襲いかかったということも書いてある。今の時代、こんなことは見ることも聞くこともほとんどないので、いったいどういうことかと思ったりします。いつでしたか冗談半分に、「牧師先生の背広に触れさせてください」と言われたことがありました。それで本当に病気が治ったなら、この教会に入りきれなくなるほど人が押し寄せてきて大変なことになるでしょう。残念ながら私が身につけているものに触れても何も起こりません。でも現実にはいま重い病気を患っておられる方にとっては、理屈はどうであれ、とにかく奇跡のようなことが自分の身にも起きればと願うのではないのでしょうか。ここから私たちはなにを教えられていくのか。ともに考えてまいります。

## 1 驚くべき力あるわざ

### 1) パウロが身につけていたものを当てた

11, 12節を読みます。「神はパウロの手によって、驚くべき力あるわざを行われた。彼が身につけていた手ぬぐいや前掛けを、持って行って病人たちに当てると、病気が去り、悪霊も出て行くほどであった。」

パウロだけにこのようなことが起きたわけではありません、使徒の働き5章をみると、ほかの使徒たちにも同じようなことが起きている。こんな不思議なことを私にもできないだろうか。そう思う人が現れてもおかしくありません。

### 2) ユダヤ人巡回祈祷師がまねをした

実際にユダヤ人の巡回祈祷師という人たちが自分にもできないかと思った。巡回祈祷師とは何か。当時、二千年前のことですからいまのように法律で定められた医師の資格をもって治療を行うというものはなく、その代わりに祈祷師という人たちが町や村を巡りながら病人を治していたのだそうです。祈祷師にもうまい下手があつて、すばらしい腕があればどこへ行っても引っ張りだこですから、収入も莫大になる。しかし腕が悪いと言われ

たら食べていけない。そこでどうするかと言えば、19節にも出てきますが、悪霊を追い出すための祈りのことばとか、まじないとか、そういう秘伝のようなものが書かれた書物を買って腕を磨いた。治療の効果が高い書物はニーズが多いわけですからその分高い値段で取引されたということです。

この巡回祈祷師たちも、常にアンテナを張ってそういう情報を探していました。そういうときにパウロが悪霊を追い出しているのを実際に見たのでしょうか。真似するだけならお金はいらないし簡単にできそうだということになった。13節後半です。「悪霊につかれている人たちに向かって、試しに主イエスの名を唱え、『パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに命じる』と言ってみた。」

## 2 悪霊が語ったこと

### 1) イエスのことは知っている

悪霊はどう反応したか。15節。「すると、悪霊が彼らに答えた。『イエスのことは知っているし、パウロのこともよく知っている。しかし、おまえたちは何者だ。』」

おもしろいことに悪霊はイエスのことをよく知っているということです。考えてみれば当然かもしれません。イエスは悪霊にとって一番恐い存在です。福音書には、イエスが来られると悪霊のほうからイエスの前に出て来てぶるぶる震える、そういう話が出てきます。イエスの前では悪霊は一切逆らうことができず、イエスの命令に従うしかない。こうなったら終わりです。そうすると悪霊はどうするか。自分の身を守るために、とにかくイエスについて情報収集して近寄らないようにするしかない。だからイエスのことはよく知っているのです。

それだけではない。悪霊はパウロの名前も知っていました。わかりやすく言えばこうです。いま「特殊詐欺」が問題になっていて、警察も被害が増えないようにといろいろな情報を積極的に出しています。だましの手口はこうです、犯人の顔写真と名前はこうですというように全部公表されている。悪霊の世界でも、同じようにパウロはこういことをしているから気をつけろというような情報が回っていたのでしょうか。それでパウロのこともよく知っていた。

巡回祈祷師たちは、「主のイエスによって、おまえたちに命じる」と言えば、悪霊は恐ろしさのあまり震え上がると思い込んでいた。ところが、悪霊は祈祷師たちをまったく恐れないどころか、お前たちのことは知らないと言って暴れ出し、ひどい目にあわせてしまう。なにがいけなかったのでしょうか。

## 2) 悪霊を追い出せなくなった弟子たち

これと似たようなことが福音書にも出て来ます。イエスが三人の弟子を連れて高い山に上られたとき、留守を守っていた弟子たちの所へひとりの父親が悪霊につかれた息子を連れて来たという話です。弟子たちはすでにイエスから悪霊を追い出す権威を受けてもらっていましたから、では私たちが代わりに悪霊を追い出して上げましょうということになってやってみた。ところが何度試してみても悪霊が出て行かない。おかしいなどうしてできないのかと、頭をひねりながら弟子たちが議論しているところへイエスが山から降りてきて「何を論じ合っているのですか」と尋ねたので、かくかくしかじかの次第ですと答えると、イエスは「ああ、不信仰な時代だ」と言って嘆かれたという場面です。

なぜ弟子たちは悪霊を追い出すことができなくなったのか。イエスの人気が高まると、弟子である自分たちも偉くなったと勘違いし、そのうち誰が一番偉いかという競争をするようになった。イエスから何を論じ合っているのですかと尋ねても、恥ずかしくて答えられないほどでした。つまり、弟子たちが悪霊を追い出せなくなったのは信仰を失ったからです。

## 3) おまえたちは何者だ

では巡回祈祷師たちはどうだったのか。悪霊はこう言いました。「おまえたちは何者だ。」たとえ悪霊にとって恐ろしいイエスという名前を語っても、イエスの名を語る当の本人が心から信じていなければ、絵に描いた餅を目の前でひらひらさせて、「これを食べていいよ」と言っているようなものでまったく意味がない。信仰がないのに、ただかたちだけ真似をただけで決まり文句のセリフを言っても、悪霊も賢いですから簡単に見抜いてしまったというのです。こうして巡回祈祷師たちは失敗してしまいました。

## 3 主イエスの名

### 1) 信仰を与えるために

今日の所から教えられることを二つ挙げたいと思います。一つ目。パウロが身につけていたものに触れたら病気が去り、悪霊も出て行きました。どうしてこんなことが起きたのか。身につけていたものに何か霊的な力があつたのではない。巡回祈祷師のことから分かるように、大切なのは信仰があるかないかなのです。癒やされた人たちや悪霊が出いった人たちに信仰がなければこんなことは起きない。でもどうでしょうか。この人たちは、最初からイエスのことを信じていたのか。イエスは私たちの救い主で、十字架で死なれたけれど三日目に墓の穴からよみがえられ、今は天に上げられてもう一度私たちのところへ来られる。これらの福音の核心部分をきちんと理解し、信じていたとは思われません。むしろ、ただ病気が治れば、悪霊が出て行ってくれれば、そういう必死の思いで手ぬぐいや前掛けに触れただけだったというのが実情だったと思うのです。ところが、そんな信仰と言えるようなものがほとんどなかったのにもかかわらず病気が去り悪霊は出て行った。つまり救われたということです。

これをどう考えたらよいのでしょうか。信仰はどうでもよい。キリスト教も御利益宗教なのか。そうではない。この癒やされた人たちや悪霊を追い出してもらった人たちは、この後どうなったか。「パウロはすばらしい」と言ったか。そうではない。巡回祈祷師たちが証言している。「パウロが宣べ伝えているイエスによって。」癒やされた人たちも悪霊を追い出してもらった人たちも、イエスの名によってこのことが起きたと理解し、そうして主の御名をあがめるようになった。信仰のない巡回祈祷師でさえそれがわかった。癒やされた人たちは、こうして主を信じていった。癒やされた後で信仰をもった。でも普通は逆ではないか。信仰をもった後で癒やされるのではと考えます。大丈夫、順番はいろいろなのです。どんな順番であろうと主は信仰があると見てくださいます。

## 2) 自分たちのしていた行為を告白した

ユダヤ人の巡回祈祷師たちが、悪霊からひどい目にあわされたことを知った多くの人たちは、みな恐れを抱き、主イエスの名をあがめました。それだけではありません。18節。「そして、信仰に入つた人たちが大勢やって来て、自分たちのしていた行為を告白し、明らかにした。」口で告白しただけでなく、魔術のテクニックが書かれた高価な書物を持って来て惜しげもなく火で焼いたというのです。主イエスの名を信じると告白することは、

同時に、自分がなにをしてきたのか、自分の罪を告白をした。人々は悔い改めていった。これがここから教えられることの二つ目です。

彼らはいつわりのことばを語り、人々をだましてお金を巻き上げていた。今で言えばひとり暮らしの老人の家に乗り込んで、老後の資金を巻き上げる詐欺師のようなものです。そんな人たち、悔い改めるとはとても思えない。ところが主のみわざを目撃し、恐れて、主に立ち返っていったというのです。

聖書をよく勉強してから信じます、という方がおります。いいかげんであるよりずっとすばらしい真面目な考え方です。しかし神が私たちを救われる方法はいろいろな順番がありうる。聖書のことはよくわからない、ただ癒やされたいと願う人であっても、主の御元に来る者を主は救ってくださり、信仰は後から与えられていくというのです。後の者が先になり、先のものが後になる。決まり切った順番などない。とにかくわたしのところに来なさい。後のことはすべて主がよいように導いてくださるから。この方にすべてをお委ねしてまた前に進んでまいります。